

信越化学工業株式会社

2019年3月期 第3四半期 電話会議要旨

日時	2019年1月29日(火) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	2019年3月期 第3四半期決算短信 2019年3月期 第3四半期決算説明資料

* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【挨拶、決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 当第3四半期累計9か月間の連結売上高は1兆2,068億円(前年同期比14%増)、営業利益は3,246億円(同33%増)、経常利益は3,294億円(同32%増)、四半期純利益は2,421億円(同40%増)。いずれの項目も過去最高。
- 当第3四半期(3か月)では、売上高は4,151億円(前年同期比13%増、前四半期比2%増)、営業利益は1,153億円(前年同期比33%増、前四半期比1%増)。各セグメントの営業利益は、前年同期比で、塩ビ・化成品26%増、シリコン24%増、機能性化学品19%増、半導体シリコン52%増、電子・機能材料20%増、加工・商事・技術サービス60%増。
- 塩ビ・化成品の増益はスプレッドの改善、シリコン、半導体シリコンは主に価格効果、電子・機能材料は数量効果で増益を達成。
- 今期通期の業績予想および配当金については、10月26日の上方修正後、見直しは行っていない。

【各セグメント概要説明 (広報部長 足立幸仁)】

➤ 塩ビ・化成品事業

【売上高3,993億円(前年同期比9%増)、営業利益909億円(同39%増)】

- シンテック社の1-9月期は、塩ビ、苛性ソーダともに高水準の出荷を継続。また、両製品の良好な需給環境により業績が大きく伸長。
- シンエツPVC社(オランダ)の1-9月期は、安定した操業を継続、堅調に推移。
- 日本の塩ビ事業は大規模定修の影響により出荷が減少。

➤ シリコン事業

【売上高 1,736 億円（前年同期比 14%増）、営業利益 458 億円（同 19%増）】

- 汎用品、機能品ともに価格の修正を行うとともに、全世界での堅調な需要に対応し、業績が拡大。

➤ 機能性化学品事業

【売上高 923 億円（前年同期比 5%増）、営業利益 209 億円（同 8%増）】

- セルロースは、医薬用製品の出荷が好調、また建材や塗料用製品も底堅く推移。
- フェロモンやポパール製品も堅調。

➤ 半導体シリコン事業

【売上高 2,856 億円（前年同期比 27%増）、営業利益 1,039 億円（同 57%増）】

- 堅調な出荷が継続するとともに製品価格の修正も寄与し、業績が大きく伸長。

➤ 電子・機能材料事業

【売上高 1,726 億円（前年同期比 12%増）、営業利益 524 億円（同 15%増）】

- 希土類磁石は、昨年 11 月頃から FA やデータセンター向けなど、一部用途で在庫調整がみられたものの、自動車向けは好調な出荷を継続。
- フォトレジストやマスクブランクスも堅調に推移。
- 光ファイバー用プリフォームは、昨年 10 月頃から光ファイバー需要に減速感がでてるも、中国合併会社での販売は堅調。

➤ 加工・商事・技術サービス事業

【売上高 831 億円（前年同期比 11%増）、営業利益 105 億円（同 26%増）】

- 信越ポリマー社は半導体ウエハー関連容器の出荷が好調に推移。

[今期業績予想の補足説明]

- 今期の設備投資額は 2,500 億円、減価償却額は 1,350 億円で、期初予想から変更なし。

【質疑応答】

〈塩ビ・化成品〉

Q	シンテックの7-9月から10-12月にかけての状況について
	<ul style="list-style-type: none">● シンテックでは10-12月に大定修を行いました。そのため、9月頃に、定修に備えた在庫の積み増しを行い出荷を抑えましたので、第3四半期（7-9月）ではその影響も出ています。● 10-12月は、定修の影響が出ます。それを除けば、特に大きな変化はありませんでした。

A	<ul style="list-style-type: none"> ● 苛性ソーダは、昨年後半、特に年末にかけて世界的に弱含みに推移しましたが、北米は、それほど影響はありませんでした。そういう地合いの中で今年に入り、昨年からのインド（通関問題）やブラジル（大手ユーザーの問題）の問題が、春先に向けて解消することを踏まえて値上げ発表をし、これに取り組んでいます。世界のソーダ需要は比較的安定しています。局所的な事象が解消すれば、堅調に推移すると考えています。 ● 塩ビは、1月の注文の入り分も良好、2月分も全て売り切り、2月には北米で4セントの値上げを打ち出しました。塩ビは季節性のひとつとして春需があり、それをめがけての値上げはよくある展開です。 ● 2019年の1-3月は、現時点では、寒波の影響があった昨年（同時期）よりは順調と考えています。
Q	シンテックのエチレンプラントの稼働時期について
A	<p>メカニカルコンプリーション（設備の完工）は、ほぼ達成できています。現在はコミッショニング（スタートアップの手前）の段階で、そういう作業の過程で不具合などが出てきますので、それらの修正、手直しを着実にこなしているところです。</p> <p>当社にとってエチレンプラントは初めての工場ですので、安全第一に、拙速にならず進めております。</p> <p>償却は、商業生産が開始されてからになります。</p>

〈シリコーン〉

Q	シリコーンの状況について
A	<p>10-12月は、7-9月と比較して大きな変化はありません。</p> <p>足元では、汎用で価格が下がったものがありますが、需要そのものは減っておらず、総じて好調を維持しています。</p>

〈半導体シリコン〉

Q	足元の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ● （ウエハー全体の状況）：2018年の10-12月期の出荷は前年同期比で伸長しました。7-9月期比ではほぼ横ばいで、勢いが若干落ちているように見えますが、前年から見ますとまだ成長を続けていると言えます。 <p>2018年1-12月の年間では、引き続き高水準に推移しましたが、前年より伸長率は鈍化しました。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ● 足元の状況は、口径別でかなり異なります。 〔150mm以下〕： 2017年から1年半以上高水準な需要状況が続きましたが、従前にみられた年後半の不需要期入りを契機に積み上げてきた在庫を圧縮する動きが強まっています。150mm以下は下降局面に入っており、1-3月期は厳しい状況が続くと見えています。 〔200mm〕： 200mmは品種、ユーザーも多く、向け先により好不調が生じています。春頃までは低調な状況が続くのではないかと見えています。 〔300mm〕： 10-12月は、7-9月に続き非常に強い需要が続きました。足元は、スマホ向けを中心としたロジック系の落ち込みと、伸長が期待されているメモリの供給過剰に伴う急速な需要軟化が、ウエハー需要にも影響を及ぼすものと考えています。ただ、メモリメーカーは年後半の需給の改善、また2020年以降の需要を睨んで設備投資を再開するという観測もあり、マクロ経済の状況によって変化するものと思われれます。
Q	長期契約について
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社は契約に沿った対応を続けています。 ● 契約は、ユーザーごとに異なりますが、数量、価格、期間などの要素、条件、を盛り込んであります。時間をかけて協議を行い合意したもののなので、この契約内容をユーザーも重んじて頂いています。
Q	口径別の出荷動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 300mmは契約に基づいて出荷する予定です。 ● 200mmはフル稼働が続いています。品種は多岐にわたっていますが、パワー半導体や高速通信向けの需要に力強さが見られ、一部では能力律速の出荷状況になっています。
Q	口径別の価格動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 300mmは、2019年、2020年ともに、為替の要素を除けば価格は上昇する見込みです。 ● 200mmもかなりの比率で契約が締結されていて、その契約の内容、期間はユーザーごとに異なります。200mmの2019年の値上げ率は、300mmに比べ小さくなると思います。 ● 150mm以下は需要が漸減傾向と見えています。当社としては価格を下げて数量を確保するようなことは現時点では考えていません。

Q	300mm ウエハーの能力増強計画について
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 足元で 300mm の需要が少し落ちていますが、今年の後半からメモリの投資が再開され、需要も立ち上がると見えています。ウエハーの製造設備は依然長納期であり、現時点では設備投資を遅らせるという考えはありません。 ● 増設は契約に準じて逐次行うという基本方針は、一切変わっていません。2019 年、2020 年ともに、契約量に応じた投資、それに間に合うような投資を続けていきます。
Q	300mmの見通しについて
A	<p>今後の 300mm の需要の見方には、いくつかの要素が影響します。</p> <p>一つは、メモリはこの 2 年間価格が高止まり、セットメーカーの需要を少し抑えてしまったという見方があり、今後メモリメーカーが価格政策をどうとるかということ。</p> <p>もう一つは、この 1~2 年で NAND と DRAM のビット成長の様相が変わってきているということがあると思われます。DRAM は微細化が相当厳しくなり、今後伸長が見込まれるビット需要を賄うにはラインの新設が必要と見られています。NAND は 3D 化が予想以上に進展し、需給が逆転してしまったとの意見があります。最先端で 90 何層、それがこの先 120 層になるのか、さらにその先に行くのかは分かりませんが、その技術の難易度とコストを見て、ビット需要を増やすにはどこが一番良いのかを、NAND メーカーは探っているものと思えます。</p>

〈電子・機能材料〉

Q	光ファイバー用プリフォームの需要について
A	<p>中国で光ファイバーの調整が起きていますが、その他地域は堅調です。中国での調整がどのくらい続くのか、国営企業である需要家大手 3 社の発注状況がどうなるのかによります。国の政策で、景気の下支えのために通信関係もさらに投資を加えていくということであれば、また立ち直っていくと思われます。中国政府の経済の運営の仕方を注視しているところです。ただ、5G 投資などを考えると、ファイバー敷設の方向性には変わりなく、そういう中での在庫調整や生産調整が今起きていると理解しています。</p>

〈全 社〉

Q	通期予想について
A	今期残す2カ月をきちんとやり、公表の予想数字の達成に集中するということで、この段階で予想を見直すことはしておりません。
Q	株主還元について
A	<ul style="list-style-type: none">●（自社株買いに関して）：3カ月前の決算説明会で、「検討をしている」と申し上げました。ここでそれにつけ加えるとすれば、検討のための検討ではないということです。●（配当に関して）：長期に安定的に実施することを方針としています。以前申し上げた35%という数字は、過去10年間の配当性向の平均値です。すぐに35%に持っていくという趣旨で申し上げたわけではありません。前回の決算発表の時に配当の上方修正をしており、今後も「長期に安定的に」という基本路線に則って配当を行ってまいります。